

日本語学習者に対する漢語サ変動詞の導入について

——韓国語母語話者への誤用対策を中心に

高 恩淑

1. 問題のありか

従来 of 先行研究で言われてきたように、日本語の「漢語+する」形と韓国語の「漢語+hata」形は形態的にも意味的にも類似しており、統語上でも対応している。そのため、韓国人日本語学習者は上級段階になっても、「漢語+hata」形の受動的表現である「漢語+toyta」形をそのまま「漢語+サレル」形に対応させて用いることが多い⁽¹⁾。

しかし、このような対応関係を一般化するには問題がある。次の漢語動詞は、日韓両言語において自動詞であるが、日本語では「漢語+する」形で、韓国語では「漢語+toyta」形で用いられるものである（*は非文表示）。

- (1) 今回の退学処分は学校の規定に矛盾する。

이번 퇴학처분은 학교 규정에 모순된다 {moswun-toy-nta}⁽²⁾。

*[今回の退学処分は学校の規定に矛盾される.]⁽³⁾

- (2) エボラウイルスは空気感染によって伝染する。

에볼라 바이러스는 공기감염에 의해 전염된다 {cenyem-toy-nta}。

*[エボラウイルスは空気感染によって伝染される.]

- (3) 脳卒中で手足が麻痺して動かなくなった。

뇌졸중으로 손발이 마비되어 {mapi-toy-e} 움직이지 않게 되었다。

(1) 柴 (1986) は、誤用が発生する理由として、「①受動態の概念の希薄、②「toyta」形に「サレル」形が対応するといった安易な指導法、③韓国語において自動詞の「hata」形と「toyta」形の共存」を挙げている。

(2) 韓国語の表記は「Yale 方式」ローマ字表記法に従うが、紙面の都合上該当する述語のみを表記する。

(3) [] は筆者訳を表す。

*〔脳卒中で手足が麻痺されて動けなくなった.〕

(4) 症状が安定しても注意が必要です.

증상이 안정되어도 {anceng-toy-etol} 주의가 필요합니다.

*〔症状が安定されても注意が必要です.〕

日本語において自動詞の漢語サ変動詞はすべて「スル」をつけるという誤用対策も考えられる(柴 1986, 生越 1992). しかし, 日本語学習者にとって, 漢語サ変動詞を自動詞か他動詞かに区別することは非常に難しい. 日本語には自他両用の漢語サ変動詞が多く, 辞書によってその判定が異なることや自他の記載すらないことも少なくないため, 母語話者にとっても自動詞と他動詞を区別することは容易ではない.

これまで, 日本語と韓国語における漢語動詞のずれやその原因を明らかにしようとする対照研究は多く成されてきたが, 日本語教育の観点から現場に役立つ実践的な指導案を提示している研究は数が少ない. 本稿では, 韓国人日本語学習者による漢語サ変動詞の誤用を減らすために, これまでの先行研究の知見を検証しながら, より適切な導入の仕方や提示方法などの指導案を提案していく.

2. 漢語サ変動詞の習得における自他分類

韓国人日本語学習者による漢語サ変動詞の習得において, 誤用を減らす対策として自動詞と他動詞の区別が有効であることは周知の通りである. また, 韓国人日本語学習者にとって, 他動詞の漢語サ変動詞の習得は比較的容易である反面, 自動詞の漢語サ変動詞の習得は難しいということや, その原因が母語からの干渉によるものであることは, これまで多くの先行研究で指摘されてきた(生越 1982, 柴 1986, 韓 1990, 辛 1993, 庵・高・李・森 2012 など).

自動詞の漢語サ変動詞の誤用を防ぐために, 柴(1986)は, 「日本語の漢語動詞が自動詞だけに用いられる場合には, 韓国語で hata 形であろうが toyta 形であろうが関係なく, 全部スル形で表される」と教える必要があるとしているが, この規則からでは次のような例文が説明できない.

- (5) スパイウェアに侵入されました。
- (6) その問題は今回の会議では言及されなかった。
- (7) 会議で合意された内容は以下のようである。
- (8) 母親の期待にそえず、そのことで母親に失望されていることはわかっています。
(BCCWJ⁽⁴⁾ : LBn9_00203)

これらの動詞はすべて自動詞であるが、「漢語+サレル」形で受身の意味を表している。初級や中級前期レベルの日本語学習者には、柴 (1986)、生越 (1992) が提案している「自動詞の漢語サ変動詞はすべて「スル」をつける」といった誤用対策で十分かもしれないが（それでも自動詞と他動詞の区別が容易ではないという問題は残る）、中級後期から上級段階にある日本語学習者の日本語能力を高めるためには、自動詞であっても「漢語+サレル」形で受身を表し得ることを教える必要があるだろう。こういった点から考えると、漢語サ変動詞は単純に自動詞、他動詞という二分類ではなく、より細分化したタイプ分けが必要かもしれない⁽⁵⁾。

これまでの主な先行研究が漢語サ変動詞を自動詞と他動詞に分類し、韓国語との対応関係を考察している中、庵・高・李・森 (2012) は、自動詞を動作主体が存在する「非能格自動詞」と、動作主体が存在しない「非対格自動詞」に分けて考察している⁽⁶⁾。非対格性の観点に基づき、韓国語母語話者に対して行ったアンケートの調査結果から漢語サ変動詞の習得との関連を指摘し、「非対格自動詞」が「非能格自動詞」や他動詞に比べ習得が困難であると述べている。本稿では、庵・高・李・森 (2012) の考えに沿って、自動詞を「非能格自動詞 (意志的自動詞)」と「非対格自動詞 (非意志的自動詞)」に分けて考察する。

自動詞と他動詞の分類は、日本語は『岩波国語辞典第6版』『民衆エッセンス韓日辞典13版』、韓国語は『民衆エッセンス国語辞典第6版』の自他に関する記載

(4) 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, 略称 BCCWJ) を指す。

(5) 石原 (2013) は、「自動詞/他動詞」の代わりに「一項動詞」「二項動詞」「三項動詞」という枠組みの導入を提案している。

(6) この分類は、70年代に Perlmutter が提案した考えで、日本では影山 (1993) 以降多く取り上げられている。

に従う。日本語と韓国語における「非能格自動詞」と「非対格自動詞」の区別は、主語にあたるものの意志性で判断する(7)。主語にあたるものの意図的な動きを表す場合を「非能格自動詞」とし、主語にあたるものの意図とは関係なく起こる変化や状態を表す場合を「非対格自動詞」とする。また、日本語の漢語サ変動詞に対応する韓国語動詞も、それぞれ「非能格自動詞」、「非対格自動詞」と見なす。

3. 韓国人日本語学習者における漢語サ変動詞の習得について

上述したように、日本語の自動詞には2種類あり、意志性をもつ「非能格自動詞」と、意志性を持たない「非対格自動詞」に大別される。庵(2008)は、三上(1953)と影山(1996)を踏まえながら、「非能格自動詞」は、はた迷惑の受身(=間接受身)になる「能動詞」に相当するため受身になるが、「非対格自動詞」は、受身にならない「所動詞」に相当するため「非対格自動詞」の受身は非文になると述べている。庵(2008)の見解が正しいとすれば、上述した用例(5)~(8)のような例文を説明するためには、日本語の自動詞の漢語サ変動詞はすべて「スル」をつけると教えるより、まず日本語の自動詞は「意志性の有無」で大きく二つに分類されることを教えた上で、意志性をもつ「非能格自動詞」だけが「漢語+サレル」形で間接受身になり得ることを提示する方がより効率的である。つまり、自動詞の漢語サ変動詞は「スル」をつけるのが無標であるが、「非能格自動詞」の場合は、「サレル」をつけて外部からの働きかけによる動作・状態の実現やはた迷惑の意味を表す間接受身を作り得ると教えた方が自動詞における誤用を防げると言える。

一方、庵・高・李・森(2012)では、韓国人日本語学習者が漢語サ変動詞を習得する際、「非対格自動詞」は「非能格自動詞」や他動詞に比べ習得が困難であると指摘しているが、その要因として次の三点が考えられる。

一つは日本語では、他動詞はもちろん自動詞(「非能格自動詞」の場合)も受身になり得るが、韓国語では、自動詞は受身になりやすく、韓国語では他動詞の漢語

(7) 高(2012)は、「動詞の意志性」を計るテストフレームとして、「願望(-タイ)」、「誘い(-ヨウ)ウ)」、「禁止(-ナ)」、「命令(-シ)ロ)」、「意志(-ツモリ(ダ))」、「試し(-テミル)」、「もくろみ(-テオク)」形式を挙げており、これらを「主体の意志表現形式」と称している。

動詞のように動作の受け手が直接的に動作の影響を受けない限り、受身の意味を表す「toyta」はつきにくい⁽⁸⁾。韓国語において自動詞の漢語動詞に「toyta」がつくのは、「toyta」が受身を表すだけでなく、動作・状態の変化の開始や変化した結果を表す「接辞」としても用いられるからである⁽⁹⁾。韓国語では、他動詞の漢語動詞に「toyta」をつけて受身を表す⁽¹⁰⁾が、自動詞の漢語動詞に「toyta」をつけると、受身ではなく「状態の変化や結果」を表すようになる⁽¹¹⁾。韓国人日本語学習者の場合、安易に「漢語+サレル」を「漢語+toyta」に対応させて用いることが多いが、状態を表す接辞「toyta」は日本語の「サレル」と違って「非能格自動詞」にはつきにくい。つまり、状態性の強い「非対格自動詞」には「toyta」がつきやすいのに対し、状態性の弱い「非能格自動詞」には「toyta」がつきにくいのである。日本語の漢語サ変動詞の場合、「非対格自動詞」に「サレル」がつきにくい点を考えると、韓国語とは相反する性質をもっていると言える。

次の用例(9)~(12)は「非能格自動詞」の受身文であるが、韓国語では「漢語+toyta」形では非文になる。

(9) 彼との結婚は簡単には賛成されなかった。

*그와의 결혼은 간단히 찬성되지 않았다 [chanseng-toy-ci anh-ass-ta].

(10) このままだと、離婚されても文句は言えない。

*이대로라면 이혼돼도 [ihon-toy-eto] 불만을 말할 수 없어.

(11) 身内に自殺された気持ちがかかりますか。

(8) 動詞によっては、「toyta」の代わりに被害を受けるといった意味をもつ接辞「tanghata」をつけて受身にすることができるが、ごく一部の漢語動詞に限られる。

(9) 許明子(2004)は、「toyta 動詞(名詞に“toyta”が付く動詞:引用者注)」の受動表現について、先行する名詞が他動性を帯びている名詞に限り「漢語+toyta」の形式が受動の意味を表すと述べている。つまり、「漢語+toyta」が受身の意味を表すか否かは先行する漢語名詞が自動性を帯びるか他動性を帯びるかによって決まると言える。

(10) 生越(2008:169)は、「hata 形(「漢語+hata」形:引用者注)が他動詞の場合、hata 形と toyta 形では構文が異なっており、hata 形では動作の主体、toyta 形では動作の対象が主語の位置に来る。つまり構文的に能動と受動という区別が自動詞の場合に比べて明確になっている」と説明している。

(11) 韓国語母語話者が日本語の漢語サ変動詞を使う時、「漢語+toyta」を「漢語+サレル」だけでなく、「漢語+ニナル」に変えてしまうのも、そのためである。

*[가족한테 자살된 {casal-toy-n} 기분을 아시나요?]

(12) 彼は連邦保安局に目をつけられ, 接近されて, 彼らの情報源になった.

(BCCWJ: PB49_00073)

*[그는 연방보안국에 눈에 띄어, 접근되어 {cepkun-toy-e} 그들의 정보원이 되었다.]

韓国人日本語学習者の漢語サ変動詞の習得において、「非対格自動詞」が「非能格自動詞」や他動詞に比べ習得が困難であるというのは、韓国語で「非能格自動詞」に「toyta」がつきにくいという性質をそのまま日本語にも適用し、「非能格自動詞+サレル」形を使わないからであろう。つまり、「非能格自動詞+サレル」形の非使用により誤用も現れにくいいため、結果的に韓国人日本語学習者にとって「非対格自動詞」より「非能格自動詞」の方が習得しやすいと考えられてきたのではないだろうか。これに関しては、今後事例に基づくさらなるデータ分析を行っていききたい。

一方、韓国人日本語学習者にとって日本語の「非対格自動詞」の習得が難しいとされる要因のもう一つは、日本語の「非対格自動詞」は受身にできないのにも関わらず、韓国語において「非対格自動詞」に「toyta」がつきやすいという性質を、そのまま日本語に対応させ「非対格自動詞」に「サレル」をつけて使用してしまうことにある。つまり、両言語の自動詞の漢語動詞において、「toyta」と「サレル」とでは相反する関係にあるにも関わらず、韓国人日本語学習者は「漢語+toyta」形を単純に「漢語+サレル」形に適用し用いることが多いため、次のような「非対格自動詞+サレル」形の誤用が生じるのである。

(13) 태풍으로 수천세대가 정전되었다 {cengcen-toy-ess-tal}.

*台風で数千世帯が停電された。

(14) 고대 국가는 언제 성립되었는가 {senglip-toy-ess-nunka}.

*古代国家はいつ成立されたのか。

(15) IT 산업은 몇 년사이에 한층 진보되었다 {cinpo-toy-ess-tal}.

*IT産業はこの数年間で一層進歩された。

(16) 사회구조가 발달되어 {paltal-toy-e}, 인구가 도시에 집중되는 현상이 일어나

고 있다.

*社会構造が発達されて, 人口が都会に集中される現象が起こっている.

このように, 韓国語では「非対格自動詞+toyta」形で状態の変化や結果を表すが, これに対応する「非対格自動詞+サレル」形は日本語において非文になる. よって, 韓国人日本語学習者に漢語サ変動詞を導入する際は, まず「toyta」と「サレル」が一对一に対応するとは限らないことと, 日本語において自動詞の漢語動詞につく「サレル」は, 基本的に他動詞や意志性をもつ自動詞(「非能格自動詞」)に限って用いられると指導し, 自動詞につく「サレル」は間接受身の意味を表すということを明示的に教える必要がある.

この他に, 日本語と韓国語の漢語動詞における自他のずれによる誤用も考えられる. 日本語における「非能格自動詞」と「非対格自動詞」は, 基本的に韓国語でもそれぞれ対応しているが, 「開通, 進行, 判明, 経由」などのように一部の動詞において日本語では自動詞の漢語動詞が韓国語では他動詞になる場合がある. これにより, 「開通される」, 「進行される」, 「判明される」のような誤用が生じると考えられる. よって, 韓国人日本語学習者に日本語の漢語サ変動詞を導入する際は, 両言語において自他のずれがあり得ることを認識させる必要があり, 使用頻度の高い自他ずれのリストを提示すべきである. これについては, 5節で詳しく取り上げることにする.

4. 韓国語の漢語動詞における「非能格自動詞」と「非対格自動詞」

日本語の場合, 「非対格自動詞」の漢語動詞は「スル」しかつかないが, 韓国語の「非対格自動詞」には「hata」, 「toyta」がつく漢語動詞と, ほとんど「toyta」しかつかない漢語動詞がある. 上述した用例(13)~(16)は, 「hata」, 「toyta」が付き得る「非対格自動詞」の例であるが, 「toyta」がつくとある現象のありようや状態の変化, もしくは結果などを表すようになる.

生越(2008)は, 自動性の漢語名詞を「主語の意志性」と「事態のどの局面に焦点があるか」によって, ①ほとんど“-hata”が使われているもの, ②ほとんど“-toyta”が使われているもの, ③どちらの形もよく使われているものの3つのグル

ープに分けられるとし、「hata」が無標の形で、「toyta」の方が有標の形であると述べている。生越（2008）が挙げている動詞を「非能格自動詞」と「非対格自動詞」に分けてみると、①ほとんど“-hata”が使われている動詞には「非能格自動詞」が多く、②ほとんど“-toyta”が使われているもの、と③どちらの形もよく使われている動詞には、「非対格自動詞」が多い⁽¹²⁾。

こういった点から韓国語の自動詞の漢語動詞を分類し、簡単にまとめると、次のように「非能格自動詞」には基本的に「hata」がつくものが多く、「非対格自動詞」には「hata」と「toyta」が両方つき得るものと、「toyta」しかつかないものが多い。

【表1】 韓国語の自動詞の漢語動詞と「hata」「toyta」との共起関係

非能格自動詞		非対格自動詞		
+ 「hata」	+ 「hata/toyta」	+ 「hata/toyta」	+ 「toyta」	+ 「hata」
握手, 外出, 会話, 集合, 解答, 試合, 留学, 前進, 参加, 入社, 入場, 入院, 出勤, 出席, 欠席, 進学, 到着, 努力, 生活, 食事, 電話, 競争, 化粧, 運動, 応援, 結婚, 自殺, 反抗, 作業, 滞在, 行動, 協力, 活動, 熱中, 相談, 連絡, 成功, 登場, 接近, 集会, 会議, 宿泊, 下宿, など.	介入, 合意, 独立, 対立, 出発, 所属, など.	通用, 変化, 成長, 適用, 成立, 満足, 安心, 興奮, 失望, 誕生, 対立, 脱線, 当選, 一致, 停電, 感動, 発達, 到着, 進歩, 発展, 回転, 死亡, 衝突, 爆発, 噴火, 合流, 流行, 落第, 激増, 循環, 関連, 発生など.	矛盾, 発覚, 失踪, 充血, 熟練, 洗練, 混線, 発車, 流通, 孤立, 決裂, 付属, 通病, 感染, 感電, 停電, 伝染, 安定, 中毒, 麻痺, 共通, 当選, 汚染, 低下, 屈折, 疎外, 乖離, など.	不足, 失敗, 存在, 発生, など.

このように、韓国語における「非対格自動詞」の漢語動詞には「hata」, 「toyta」がつき得るだけでなく、基本的に「toyta」しかつかない動詞があるため、

(12) 尹（2003）は、「スル」の意味特徴と対応関係について論じる中で、日本語の非能格性の「スル」は韓国語の「hata」に、非対格性の「スル」は「toyta」に対応するとしている。

上述した用例(1)~(4)のように日本語では「漢語+スル」形でしか使用できない漢語動詞を「漢語+サレル」形で用いる誤用が生じるのである⁽¹³⁾。次の用例(17), (18)も韓国語では「toyta」しかつかない「非対格自動詞」であるため、韓国人日本語学習者は「低下される」, 「付属される」の形を用いるようになると予想される。

(17) 世帯人員の減少から他の世帯員収入の割合は低下している。

(BCCWJ : OW2_00115)

(18) OSのないソフトは基本的に存在しません。OSに依存しない場合であっても、そのソフト単体にOSの機能が付属しているからです。

(BCCWJ : OC02_07190)

一方、上述したように「非対格自動詞」につく「toyta」は受身形ではなく状態を表す接辞で、ある現象のありさまや状態の変化、結果などを表す。韓国語の漢語動詞において「toyta」しかつかない「非対格自動詞」は、状態性が高く、状態変化の主体として非情物、またはそれに等しい意志性のない動作主体を伴う。

(19) 정부는 이에 대해 국제적으로 통용되는 {thongyong-toy-nun} 국적주의를 채택했기 때문이라 설명하고 있다. (21世紀世宗計画コーパス:朝鮮日報社, 1999)

* [政府はこれについて国際的に通用される国籍主義を採択したためであると説明している.]

(20) 그런데 우리는 지구촌 사람들에게 이중적이고 모순된 {moswun-toy-n} 모습을 보여주고 있는 듯하다. (21世紀世宗計画コーパス:東亜日報社, 2002)

* [だけど、私達は世界中の人々に二重的で矛盾された姿を見せているようである.]

韓国語の漢語動詞の場合、一部の「非能格自動詞」に限って「toyta」がつき得

(13) 生越(1982)は、漢語動詞についての誤用は、その多くが母語である朝鮮語からの干渉によるもので、「~する→~される」のように言語の体系的なずれが原因の誤りは学習者が進んでもなくならない、と述べている。

るが、単なる状態変化を表す「非対格自動詞+toyta」形と違って、「非能格自動詞主+toyta」形は主語にあたる動作主体が外部からの何らかの働きかけを受けるといった受身的な意味を表すことが多い(14)。以上の点を踏まえて、日本語と韓国語の漢語動詞の対応関係を表で示すと、次の【表2】のようである。

【表2】 日本語と韓国語の漢語動詞の対応関係

		他動詞	非能格自動詞	非対格自動詞
日本語	漢語+スル	○	○	○
	漢語+サレル	○(受身)	○〔間接受身〕	×
韓国語	漢語+hata	○	○	○
	漢語+toyta	○(受身)	△※	○〔状態変化〕

(※は、一部の漢語動詞に限られる)

5. 日本語と韓国語における自他両用の漢語動詞

柴(1986)は、漢語サ変動詞が自動詞と他動詞との両方に用いられる場合には、通常、「hata」形「toyta」形とも「スル」形であるが、外部からの力を強調する場合には、「サレル」形で表されると述べている。一方、韓(2000)は、動作主との関係がはっきりしている受身構文の場合は「サレル」に、自動詞構文を含む他のものは「スル」にするよう指導することを提案している。柴(1986)と韓(2000)のいう誤用対策により、安易に「漢語+toyta」形を「漢語+サレル」形に変えてしまうような誤用は比較的減少すると期待できるが、日本語学習者にとって漢語サ変動詞の自他を区別することは容易ではない。辞書に基づいて使い分けようとしても、記載されていない辞書も多く、自他両用動詞に関しては揺れも見られる。とりわけ、自他両用動詞の判定は文法的な知識があるからといって解決できるものではない。日本語の自他両用動詞の場合、すべての用法に「サレル」が付き得るわけではなく(15)、用法によって「サレル」をつけるかどうかを判断しなければならない。

(14) 禹(1997:154-155)は、自動性の漢語名詞に“-hata”が付いた形と“-toyta”が付いた形を比較し、“-hata”が付いた形の場合は意図的な行動性があり、“-toyta”が付いた形の場合は受動的な面がうかがえ、外的な作用や偶然の結果でそうなったことを示唆すると説明している。

日本語学習者に対して、単に外部からの力や動作主の関係がはっきりしている場合に限って「サレル」がつくと説明しても、文脈から他動詞や受身の用法を判断することは容易ではない。

韓国語日本語学習者の場合、母語に影響されやすく、韓国語の漢語動詞の形態をそのまま日本語に対応させて用いる傾向があるため、次のような誤用を起こすことが多い(16)。用例(21)~(24)は、日本語では自他動詞であるが、韓国語では他動詞の漢語動詞である。韓国語ではすべて「漢語+toyta」形が用いられるが、日本語では「漢語+サレル」形ではなく、「漢語+スル」形が用いられる。

- (21) 오랜 꿈이 실현되었다 [silhyen-toy-ess-ta].
長年の夢が 実現した/*実現された].
- (22) 이번 사고로 파손된 [phason-toy-n] 차는 보험에 안 들어 있었다.
今回の事故で 破損した/*破損された 車は保険に入っていなかった。
- (23) ○○에 지진이 발생하여 그 여진으로 보이는 지진이 지금도 계속되고 있다 [kyeysok-toy -ko iss-ta].
○○に地震が発生し、その余震とみられる地震が今も 継続している/*継続されている].
- (24) 1942 에 완성된 [wanseng-toy-n] 세계 최초의 컴퓨터는 무엇입니까?
1942 年に 完成した/?完成された 世界初のコンピューターは何ですか

日本語と韓国語は共通する漢語動詞が多いが、自他両用の漢語動詞の場合、そのずれが大きい。特に、上述した用例(21)~(24)のように日本語では自他両用動詞として使われる漢語動詞が韓国語では他動詞になることが少なくない。

(15) 森 (2012) は、自他両方の漢語サ変動詞には、自動詞や他動詞を基本とするもの、自動詞か他動詞に制限があるものがあると指摘し、「他動詞に制限」がある動詞は自動詞に近く、「自動詞に制限」がある動詞は他動詞に近いと指摘している。

(16) 澤邊・安井 (2008) は、韓国語ではその動作が自分の力によるものか、他者の力によるものかなど、動作主をどう認識するかによって「漢語+hata」か「漢語+toyta」かを選択するが、日本語は自分以外の力によって引き起こされたものも「する」で表すと説明している。

3節で述べたように、こういった誤用は日韓両言語において形態的にずれている動詞をリストアップし提示することで、改善されると期待できる。韓国人日本語学習者に対して漢語サ変動詞を導入する場合、まず日本語と韓国語において形態のずれがあり得ることを認識させる必要がある。その上で、「toyta」と「サレル」が対応して用いられるのは基本的に他の漢語動詞に限られると指導すべきである。また、「サレル」は「toyta」と違って意志性を持たない「非対格自動詞」にはつかないことを明示的に教える必要がある。それに、日本語の自他両用の漢語動詞の場合、自動詞と同様に「スル」をつけるのが無標であるが、「非能格自動詞」のように主語にあたる動作主体が外部からの何らかの働きかけを受けるといった間接受身の意味を表す場合に限って、「サレル」をつけることができると指導すれば、誤用を減らすことが可能であろう。

石原(2013)は、漢字圏の学生に対しての漢語サ変動詞の導入の仕方として、「漢語+スル」という形式で自動詞になるグループと、「漢語+スル」という形式が他動詞になるグループをそれぞれリストアップして覚えさせるのが効果的であるとしているが、韓国人日本語学習者の負担を減らすためには日韓両言語における自他を認識させ、ずれが見られる動詞だけを絞って提示する方がより効率的であると思われる⁽¹⁷⁾。

- i) 日本語では自動詞で韓国語では他動詞になる漢語動詞
開通, 進行, 判明, 経由, など.
- ii) 日本語では自他両用で韓国語では他動詞になる漢語動詞
実現, 回復, 展開, 解消, 加速, 完成, 確定, 継続, 分離, 解決, 混合, 破損, 閉鎖, 確定, 討論, 中断, 注目, 消耗, 延長, 反論, 開始, 統一, 拡大, 解決, 普及など.
- iii) 日本語では自動詞で韓国語では自他動詞になる漢語動詞
反対, 侵入, 冒険, 交流, 面接, 論争, 賛成, 言及, 留意, 接触, 着手, など
- iv) 日本語では他動詞の漢語動詞が韓国語では自他動詞
約束, 感謝, 訓練, など

(17) 下に示すi)~iv)以外に、「発生, 分布」のように日本語では自他動詞が韓国語では自動詞になる場合もある。

6. まとめ

本論文では、韓国人日本語学習者による漢語サ変動詞の誤用の要因と、その誤用を減らすための指導案について簡単に考察を試みた。これまでの先行研究の知見を検証しながら、より適切な導入の仕方について考察した結果、次のような指導案が考えられた。

- ① 日本語の「漢語+する」形と韓国語の「漢語+hata」形は形態的にも意味的にも類似しているため、韓国人日本語学習者は「漢語+hata」形を受動的表現である「漢語+toyta」形を「漢語+サレル」形に対応させて用いることが多い。他動詞の漢語サ変動詞の場合、「漢語+toyta」形と「漢語+サレル」形は対応していることが多いが、自動詞の場合、両者のずれが見られる。よって、漢語サ変動詞を単に自動詞と他動詞に分類して提示するより、主語にあたるものの意志性の有無で自動詞を「非能格自動詞」と「非対格自動詞」に分けて導入する方がより効率的であると言える。自動詞の漢語動詞は「スル」をつけるのが無標であるが、意志性をもつ「非能格自動詞」だけは「サレル」をつけて外部からの働きかけによる動作・状態の実現やはた迷惑の意味を表す間接受身を作り得ると教えれば、むやみに漢語動詞に「サレル」をつける誤用は減少するであろう。
- ② 日本語の漢語動詞は「非能格自動詞+サレル」形で間接受身を表し得るが、韓国語では状態性の低い「非能格自動詞」に「toyta」はつきにくい。その一方、韓国語の漢語動詞は、「非対格自動詞+toyta」形で状態の変化や結果を表すが、日本語では、「非対格自動詞+される」形は非文になる。つまり、両言語における自動詞の漢語動詞は、「サレル」と「toyta」の共起関係が相反する性質をもっているにもかかわらず、韓国人日本語学習者は「漢語+toyta」形を単純に「漢語+サレル」形に対応させ用いることが多いため、「非対格自動詞+サレル」形の誤用が生じる。よって、韓国人日本語学習者に漢語サ変動詞を導入する際は、まず「toyta」と「サレル」が一对一に対応するとは限らないことと、日本語において自動詞の漢語動詞につける「サレル」は「toyta」と違って意志性を持たない「非対格自動詞」にはつかないことを

教える必要がある。

- ③ 韓国人日本語学習者による漢語サ変動詞の誤用には、日本語と韓国語における自他のずれによる誤用が見られる。よって、韓国人日本語学習者に対し漢語サ変動詞を導入する際は、まず日韓両言語において形態的にずれている動詞をリストアップし提示する方が学習者の負担を減らすことになる。韓国語とのずれが見られる漢語動詞を提示した上で、日本語における自他両用の漢語サ変動詞は自動詞の場合と同様に、「スル」をつけるのが無標であるが、主語にあたる動作主体が外部からの何らかの働きかけを受けるといった間接受身の意味を表す場合、「サレル」をつけることができると指導すれば、誤用の減少が期待できる。

2節で述べたように、柴（1986）、生越（1992）は韓国人日本語学習者による漢語サ変動詞の誤用対策として、日本語の自動詞の漢語サ変動詞にすべて「スル」をつけることを提案しているが、意志性をもつ自動詞は間接受身になり得るため、さらなる改善案が求められる。よって、本稿では漢語サ変動詞は単純に自動詞、他動詞という二分類ではなく、庵・高・李・森（2012）に沿って、自動詞の漢語サ変動詞を、意志性をもつ「非能格自動詞」と、意志性をもたない「非対格自動詞」に分けて考察を試みた。韓国人日本語学習者に対する漢語サ変動詞の導入や提示方法などの指導案は上述した通りである。本稿で提案した指導案を使った裏付けの調査については今後取り組んでいきたい。

参考文献

- 庵功雄（2008）「漢語サ変動詞の自他に関する考察」『一橋大学留学生センター紀要』11, pp. 47-63.
- 庵功雄・高 恩淑・李 承赫・森 篤嗣（2012）「韓国語母語話者による日本語漢語サ変動詞の習得における母語転移に関する一考察」言語科学会第14回年次国際大会（JSL2012）.
- 石原嘉人（2013）「漢字圏の学生に対する漢語スル動詞の導入」『留学生教育』10, pp. 1-16, 琉球大学留学生センター.
- 生越直樹（1982）「日本語漢語動詞における能動と受動——朝鮮語 hata 動詞との対照——」『日本語教育』48, pp. 53-65, 日本語教育学会.
- （1992）「韓国人日本語学習者のボイスに関する誤用——漢語動詞の誤用を中

- 心に——」『横浜国立大学教育学部実践研究指導センター紀要』8, pp. 159-166.
- (2008) 「現代朝鮮語における様々な自動・受動表現」生越直樹・木村英樹・鷺尾龍一編『ヴォイスの対照研究——東アジア諸語からの視点』pp. 155-185, くろしお出版.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房.
- (1996) 『動詞意味論——言語と認知の接点——』くろしお出版.
- 許明子 (2004) 『日本語と韓国語の受身文の対照研究』シリーズ言語学と言語教育3, ひつじ書房.
- 高恩淑 (2012) 「動詞の意志性」を問う——可能形式との関わりを中心に——『日本語文法』12 (2), pp. 111-127, 日本語文法学会.
- 澤邊裕子・安井朱美 (2008) 「韓国人学習者の日本語漢語動詞の習得に関する一考察」『第二言語としての日本語の習得研究』pp. 141-159, 第二言語習得研究会.
- 柴公也 (1986) 「漢語動詞の態をいかに教えるか——韓国人学生に対して——」『日本語教育』59, pp. 144-156, 日本語教育学会.
- 辛碩基 (1993) 「日本語と韓国語の漢語動詞——受動の形態を中心に」『日本語と日本文学』18, pp. 12-21, 筑波大学.
- 韓先熙 (2000) 「日本語と韓国語の漢語動詞について——日本語教育の立場から——」『ことば』21, pp. 137-151, 現代日本語研究会.
- 韓有錫 (1990) 「漢語動詞「スル」と「-toeda」の日韓対照研究」『名古屋大学国語国文』67, pp. 103-120, 名古屋大学国語国文学会.
- 三上章 (1953) 『現代語法序説—シンタクスの試み』刀江書院 (復刊 1972 くろしお出版).
- 森篤嗣 (2012) 「使役における体系と現実の言語使用——日本語教育文法の視点から——」『日本語文法』12 (1), pp. 1-17, 日本語文法学会.
- 尹亨仁 (2002) 「日本語と韓国語の漢語動名詞の統語範疇をめぐって」『神奈川大学言語研究』25, pp. 117-137, 神奈川大学言語研究センター.
- 우인혜 (1997) 『우리말 피동연구』한국문화사
- 〔禹仁惠 『Wulimal (韓国語) 被動研究』韓国文化社：引用者訳〕

◆ Web上のサイト：

- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言』<https://chunagon.ninjal.ac.jp/search>
 (Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, 略称 BCCWJ)
- 『21世紀世宗計画コーパス』<http://sejong.or.kr/>